

困難を抱える子供・若者(ニート、ひきこもり、不登校)への支援～不登校、ひきこもりの子供に関わる支援者の育成をととして～

- 1 現状と課題
- 「いばらき教育プラン」では、すべての子供達への学習機会の確保が「基本方針4 誰もが安心して学べる教育環境づくり」として示されている。だが、さまざまな理由により、学校に通うことができない「不登校児童生徒」が、全国的に増加している。茨城県においても、小学校で6年連続、中学校では9年連続で増加しており、不登校児童生徒の学びの機会を確保することが、大きな課題となっている。
 - 厚生労働省「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進について(通知)」(平成29年12月12日付)では、「教育委員会や社会教育委員等と連携して、社会教育や学校教育の中で、(中略)社会的孤立等に関して学ぶことを通じて、地域や福祉を身近なものとして考える機会を提供することも重要である。」「ボランティアや地域活動に参加したいと考えている人は多いものの、実際に活動している人は一部である。そのため、知人が誘う等の気軽に活動に参加できるきっかけづくりや、地域住民や団体、企業等が実際に地域で活動できるようにするための中間支援機能の整備、公民館や社会教育における学習活動との連携、(中略)が大切である。」と、関わろうとする意識があるにもかかわらず、機会がないため実際の活動ができない現状を示している。
- 2 期待される効果
- 困難を抱える子供・若者支援活動のきっかけづくり(ボランティアに興味はあるが場がない人等)
 - 困難を抱える子供・若者支援者のスキルアップ(すでに活動の場がある人)
 - 関係団体(NPO等)と新たな支援者をつなげる場づくり

3 事業実践方法

(1) 概要(目的)

各地域や市町村の抱える様々な現代的課題・地域課題の解決に向けて、必要な人材の育成や関係団体との連携・ネットワークの構築等を行い、モデルとなる実践的な活動を行う。

(2) 委員構成等

委員	事業協力者(先)
常磐大学 人間科学部教育学科 助教	一般社団法人「アイネット」
NPO 法人セカンドリーグ茨城 理事長	みとなんでもクラブ
茨城県ひきこもり相談支援センター センター長	むすびつば
こども学校プロジェクト 代表	フリースクールふらっと
認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所 理事長	子どもの居場所、フリースクール 花音～hane～
茨城県水戸教育事務所 学校教育課 主任社会教育主事	おばら子どもの居場所
茨城県立図書館 普及課 社会教育主事	こどものSONORA
みと好文カレッジ 主事	NPO法人「虹のポケット」

(3) 具体的な取組内容

ア 会議・交流会等

期日	内容	出席者等
令和3年		
7/2(金)	第1回実行委員会 事業趣旨説明、事業計画説明、研修会・交流会説明等	委員 (11名)
9/3(金)	第2回実行委員会 研修会・交流会についての協議等	委員・事業協力者 (14名)
12/18(土)	第3回実行委員会【表1】 交流会・実践についての協議等	委員・事業協力者 (15名)
令和4年		
1/15(土)	交流会【表2】 研修を受けての実践先となる各団体との交流等	一般 (23名)
3/16(水)	第4回実行委員会 実践について、次年度の事業について等の協議	委員・事業協力者 (10名)
6/29(水)	第5回実行委員会 実践の経過報告、本年度の事業並びに実践について等	委員・事業協力者 (9名)

【表1】

- 1 実施日 令和3年12月18日(土)
- 2 参加人数 50名(来所40名、オンライン10名)
- 3 内 容
 - ア テーマ「社会課題としての不登校～困難を抱える子どもたちへの支援～」
 - イ 講師等
 - ・コーディネーター 常磐大学人間科学部教育学科 助教 小山田 建太 氏
 - ・「不登校と家庭」
講師：一般社団法人アイネット 理事長 浅沼 秀司 氏
 - ・「LD(Learning Differences):多様な学びと育ちを支えるために」
講師：認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所 理事 小野村 哲 氏
 - ・「こどもとの向き合い方」
講師：こども学校プロジェクト 代表 矢代 貴司 氏

4 成果等

参加者からは「最新の情報(フリースクールでの心構えや現場の実際等)についてたくさん得ることができて有意義だった」「専門的なことを知ることができてよかった。講師の方の考えに共感し、実践できればと考える」等、内容について「直ちに役立つ」「役立つ」との肯定的な回答が100%であった。また、市町村教育委員会関係者等学校教育に携わる10名の参加も得られた。



【表2】

- 1 実施日 令和4年1月15日(土)
- 2 参加人数 23名
- 3 内 容
 - ア 主な内容 研修を受けての実践先となる各団体との交流等
 - イ 講師等
 - ・コーディネーター：認定NPO法人セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子 氏
 - ・事業協力団体(実践先)
「ひたちなか市 正安寺 ふらっと」、「ひたちなか市 子どもの居場所、フリースクール花音～hane～」
「笠間市 おばら子どもの居場所」、「牛久市 こどものSONORA」、「つくば市 むすびつくば」、
「筑西市 アイネット」、「常陸大宮市 虹のポケット」、「水戸市 みとなんでもクラブ(仮)」

4 成果等

参加者からは「それぞれのフリースクールについて、実際の事業を詳しく聞くことができ勉強になった」「フリースクールを主催している方達の思いを知ることができた」等の意見があり、今後の実践活動に「直ちに役立つ」「役立つ」との肯定的な回答が100%であった。また、研修会の際にオンライン参加対象であった者も交流会に参加したいとの要望が強くあり、市町村教育委員会指導主事等の参加もあった。



<実施にあたって、工夫点、留意点等>

[会議]

- * 課題に即して実践をしている方を委員として招聘し、実践先となる事業協力者の選定も含め、効果的且つ継続性も見据えての事業の計画とブラッシュアップを行った。
- * 委員や事業協力者同士のネットワーク化も図り、事業終了後の継続性も視野に入れての会議を開催した。

[交流会]

- * 事業協力先の具体的な実践や担当職員との交流をとおして雰囲気に関し、参加者と実践先とのマッチングを図った。
- * 参加者が継続して実践できるよう、事業協力先等と密に連絡・連携を図った。
- * 実践に向けて研修会とは別に交流会を設け、事業協力先との調整を丁寧に行った。事業協力先には対応を間違えることのできない対象者が実際におり、そこでの実践となるということの重点的な意識化を図る機会ともなり、研修会の学びを深化することができた。
- * 「研修会に参加しての実践をする」と銘打った企画の際には、内容に関心のある者、既に活動をしておりより実践を行いたい者等の「意識の高い人材」が応募し、自身の価値観の押しつけに陥ることが過去の事業・講座からも多々見受けられる。今回も事業協力者から懸念されたことであり、そのために交流会を設けた意図もある。だが、実践者からの紹介で事業協力先に赴き、オンデマンドで研修を受けた後、実践を行っている者については、継続もしており、また事業協力先との関係も良好である。単年度ではなく、複数年度実施したプログラムであるからこそ、課題に迫ることができた。
- * 市町村教育委員会職員等の参加もあり、教育現場にもニーズのある内容であった。

イ 研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	対象者
令和3年		
12/18日(土)	研修会 「社会課題としての不登校～困難を抱える子どもたちへの支援～」	一般(50名)
令和4年		
令和4年度中	オンデマンド研修会 限定公開となっている研修会の内容を視聴しての研修	委員・事業協力者推薦者
9/13(火)	オンデマンド研修会【表3】 限定公開となっている研修会の内容を視聴しての研修	ばんどう太郎さしま青少年の家での「教員を目指す大学生等の野外活動実習1」参加者(5名)

【表3】

<p>1 実施日 令和4年9月13日(火)</p> <p>2 参加人数 5名</p> <p>3 内容 教職員希望の大学生を対象にオンデマンド研修を実施</p> <p>4 成果等 本来であれば実践に向けての研修であるが、教育現場を希望する学生にもということで研修会講師の許諾をとり実施した。今後、参加の学生が実際の学校現場でも役立つ学びを提供することができた。</p>	
---	---

<実施にあたって、工夫点、留意点等>

- * 研修会の内容について、「不登校と家庭」「LD(Learning Differences):多様な学びと育ちを支えるために」「こどもとの向き合い方」と3つの視点からチャレンジ課題に迫った。開催時間や回数に制限があったとしても、様々な見方でアプローチが必要であるということを示すことができた。
- * 「支援」という言葉を用いての事業・講座の募集を行うと、気負いのある方の参加が多いとの委員会からの助言もあり、研修会ではスムーズに実践のできる術等「スキル」的な事柄から、子どもへの接し方までを扱った内容とした。
- * 市町村教育委員会職員等の参加もあり、教育現場にもニーズのある内容であった。

ウ 実践

期日	内容等	備考
令和4年 1/15(土)～ 令和5年3月末	研修会・交流会参加者を対象に、研修を踏まえて事業協力先 において実践を行った。 [実績] 令和4年 1月: 6件9名 2月:12件21名 3月:13件23名 4月:25件29名 5月:21件21名 6月:27件27名 7月:22件23名 8月:15件15名 9月:24件24名 10月:19件19名 11月:25件25名 12月:21件21名 令和5年 1月:18件18名 2月:22件25名 3月:19件20名	研修会・交流会に参加していない者が 実践を行いたい際には、関係者(実行 委員会、事業協力先、事務局)の推薦 を得た上で、オンデマンドで研修会を視 聴した上で実践を行った。

<改善点や留意点等>

- * 参加者(実践者)各自との調整を随時行い、複数箇所での実践等希望に即して展開し、継続して実践できるよう配慮した。
- * 事業協力先で研修会を随時オンデマンドで視聴できるようにし、事業目的の確認と実践のスキルアップを図った。
- * 参加者(実践者)の報告等 google フォームで随時行い、感想等の反応を把握し事業協力先と共有できるようにした。
- * 新規の実践希望者については、人選に最新の注意を払う必要があるため、関係者(実行委員、事業協力先の関係者、事務局)の紹介・推薦によりオンデマンド研修を視聴してから実践を行うこととした。
- * 関係者の推薦によりオンデマンド視聴での研修後実践を行った新規実践者が4名あった。また事業協力先に就職の方が2名(予定者含)あった。事業の理念がゆるやかにではあるが浸透しており、今後の普及・啓発に向けても資する内容であったと考える。